

平成31年度
講義概要
1 学年（44回生）

大阪府歯科医師会附属歯科衛生士専門学校

序 言

歯科衛生士養成所指定規則に示されている教育課程の総時間数は、1965時間であり、本校においても社会的なニーズに対応した週五日制を検討し厚生労働大臣（現文部科学大臣）に変更申請書を提出し受理された平成8年4月1日より歯科衛生士教育に必要な教育科目や時間数等を独自に体系化、教育カリキュラムの改善に各講師が努めてまいりました。

今回、講義概要を作成することにより学生が歯科衛生士の専門科目と、授業内容を理解し、学力向上に繋がりますよう努力いたしたく思っております。

今後ますます多様化する歯科保健医療のニーズに対応するため、各科目での重複又は補充項目を整理し歯科衛生士の資質向上を図ることを目的としています。

最後に、講義概要を発刊するにあたり何かとご多忙中のところ、ご執筆いただきました講師各位に心より厚くお礼申し上げます。

平成31年4月吉日

目 次

歯科臨床概論	1
歯科衛生士概論	2
口腔解剖学	3
生物学	4
微生物学・口腔微生物学	5
英語	6
解剖・組織発生学Ⅰ	7
解剖・組織発生学Ⅱ	8
コミュニケーション論	9
生理学・口腔生理学	10
華道	11
化学	12
歯科器械材料学	13
衛生・公衆衛生学	14
口腔衛生学	15
文学論（国語表現）	17
生化学・口腔生化学	18
情報処理	19
心理学（臨床心理学）	20
栄養学	21
歯科放射線学	22
歯周治療学	23
薬理学・歯科薬理学	24
病理学・口腔病理学	25
保存修復学	26
歯内治療学	27
隣接医学（精神医学含）	28
感染予防学	29
歯科予防処置論Ⅰ	30
歯科診療補助論Ⅰ	31
歯科保健指導論Ⅰ	32

歯科臨床概論

1. 目的

今日の急速な高齢社会の到来とともに国民の歯科医療へのニーズはますます多様化し、医療の質的向上も強く求められている。その中で歯科衛生士の持つ役割への期待、要望は多岐にわたり、重要度は年々増加する一方である。それに伴って歯科衛生士を志す学生の学ぶべき内容は増加し、より高度なものへと変化している。歯科臨床概論の目的は、歯科臨床医学を学ぶに当たり、歯科衛生士の持つ役割の意義を身に付け、そのもっとも基礎的な部分を理解するとともに歯科臨床システム全体を概観し、より専門的な教科を学習する下地をつくることにある。

2. 授業計画：講義（4回）

（1）歯科医療のしくみ

- 医療の基礎
- 歯科医療の特徴
- 歯科臨床従事者の役割
- 歯科診療所と設備内容
- 歯科医療に関する法的事項

（2）診察と患者への対応

- 診察のながれ
- 診療録などの医療文書
- 患者の心理と対応
- 老人・全身疾患を持った患者への対応
- 小児・妊婦への対応

（3）歯科疾患の概要とその治療

- 歯科疾患の種類
- 歯科保存治療
- 歯周治療
- 歯科補綴治療
- 口腔外科治療
- 小児歯科治療・矯正歯科治療

（4）さまざまな検査・診療器具の準備

- エックス線検査
- 血液検査
- 臨床検査
- 消毒と滅菌

3. 教科書：「歯科衛生士のための歯科臨床概論」 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験

歯科衛生士概論

1. 目的

保健医療人としての基本的態度について理解し、人びとのニーズにあった健康づくりを支援する者となるために、論理的思考法の基礎を修得する。

2. 授業計画：

1. 歯科衛生学とは
歯科衛生士の歴史
2. 歯科衛生活動のための理論
歯科衛生過程
3. 歯科衛生士と歯科衛生業務
歯科衛生士と医療倫理
4. 歯科衛生士の活動と組織
海外における歯科衛生士

3. 教本：最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論 医歯薬出版

4. 評価方法：単位試験

提出課題及び出席率、授業態度により評価する

口腔解剖学

1. 目的

歯科医学の基本知識である歯の種類、歯の形態、方向用語などの知識を習得することを目的とします。歯は立体であるため授業では理解しがたい部分があります。それを実習でカービングという石膏から削り出すことにより多面的に見ることで理解を深めます。さらに歯を一つのものから歯列や咬み合わせというグループとしての働きを学習していきます。

2. 授業計画：講義および実習

1. 総論
2. 総論および切歯について
3. 切歯について
4. 犬歯について
5. 小白歯について
6. 大白歯について
7. 大白歯について
8. 咬合、歯列について
9. 乳歯について

3. 教科書：「基礎から学ぶ歯の解剖」編・前田健康 医歯薬出版

4. 評価の方法：筆記試験に実習テストを加味して総合的に評価する

生 物 学

1. 目的

生命科学分野の専門性が高い専門基礎科目の学習がスムーズに行えるように、生物学・生命科学の基本知識を理解・習得することを目標とし、主に「細胞の構造と機能」、「人体の成り立ち」、「遺伝子の働き」などを中心に講義する。

2. 授業計画：講義

1. 生命とは何か：細胞を構成する物質
2. 細胞構造と機能（1）：動物細胞の構造
3. 細胞構造と機能（2）：動物細胞の働き
4. 細胞分裂：体細胞分裂と減数分裂
5. 遺伝と遺伝子（1）：メンデル遺伝と疾患
6. 遺伝と遺伝子（2）：セントラルドグマ
7. 動物の胚発生と再生医療
8. 恒常性と免疫

3. 教科書：最新歯科衛生士教本「生物学」（医歯薬出版）

4. 評価の方法：単位試験80%、小テスト・出席状況等の平常点20%により総合的に評価する

微生物学・口腔微生物学

1. 目的

我々の身のまわりには多くの微生物が存在しており、共生しながら健康を維持している。しかしながら、微生物の中には時に重篤な感染症を引き起こすものも少なくない。口腔も例外ではなく、2大疾患として知られるう蝕と歯周病は、細菌が原因となって引き起こされる。これら疾患の予防・治療は歯科衛生士の重要な役割であることから、感染症の原因微生物の性状、発症メカニズム、化学療法薬の作用機構等を正しく理解しておくことは極めて重要である。また、歯科診療に不可欠である滅菌・消毒についても正しく理解しておく必要がある。本科目では、さらに生体の防御機構である免疫についても学び、我々の体がいかに病原微生物の感染を排除し、免疫記憶（一度罹った病気に二度罹らない）を成立させるのか理解を深める。

以下に示す項目に特に重点を置き、医療従事者として必要な基礎知識を習得する。

1. 病原微生物の特徴
2. 感染症とその予防・治療
3. 口腔の感染症
4. 宿主防御システム（免疫）

2. 授業計画：講義

以下の項目について、教科書とスライドを用いて進めていく。

1. 微生物の特徴
2. 感染症総論
3. 細菌感染症
4. ウイルス、真菌、その他の感染症
5. 感染予防と治療法（滅菌と消毒、標準予防策、抗菌薬、ワクチン）
6. 口腔環境と微生物
7. 口腔感染症（う蝕、歯周病）
8. 免疫・生体防御システムとアレルギー

3. 教科書：「最新歯科衛生士教本 微生物学」（医歯薬出版株式会社）

4. 評価の方法：小テストと単位試験による総合評価

英 語

1. 目的

現代の歯科において、グローバル化に対応できる英語力を身につける。単語力、会話力の向上を目指す。

2. 授業計画：講義

1. 自己紹介、簡単な挨拶
2. ブラッシング、コミュニケーションに役立つ英会話
3. 救急英語、税関、機上で役立つ英会話
4. 歯科専門用語（1） レストランなどで役立つ英会話
5. 診察及び治療計画、専門用語（2）
6. 診察内での専門用語 ホテルで役立つ英会話
7. 院内内の電話などの対応。交通機関での英会話（タクシー他）
8. まとめと復習。テスト対策

3. 教科書：歯科衛生士のための英会話 (New interchange)

Side by Side (Longman)

Crown I (三省堂)

4. 評価の方法：出席状況、受講態度、小テスト、科目単位試験を総合的に判定して行います。

解剖・組織発生学 I

回	月 日	(曜日)	時限	講義内容
1	4月10日	水	PM	総論
2	5月15日	水	AM	骨系 その1
3	5月29日	水	Am	骨系 その2
4	6月5日	水	PM	筋系 その1
5	6月26日	水	PM	筋系 その2
6	7月10日	水	PM	骨学実習
7	9月18日	水	AM	組織学
8	9月18日	水	PM	内臓系 (総論) 消化器系 (総論) 消化器系 (各論)
9	9月25日	水	AM	消化器系 (各論) 呼吸器系
10	9月25日	水	PM	脈管系 (総論・心臓)、脈管系 (各論)
11	10月2日	水	AM	発生学
12	10月2日	水	PM	泌尿器系 生殖器系
13	10月9日	水	AM	生殖器系 内分泌
14	10月9日	水	PM	神経系 (総論) 神経系 (中枢神経)
15	10月16日	水	PM	神経系 (末梢神経)、感覚器系

教科書：学生のための解剖・組織・発生学 医歯薬出版

解剖・組織発生学 II

1. 目的

有機的で広範な全身的理解を前提として、口腔および歯の構造と発生を理解できるようにすることで解剖の知識をより深めることを目的とします。

2. 授業計画：

1. 口腔・歯の発生
2. エナメル質 象牙質
3. セメント質、歯髄
4. 歯周組織

3. 教科書：最新歯科衛生士教本「口腔解剖学、口腔組織発生学・口腔生理学」

全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版

4. 評価の方法：筆記試験に平常点を加味して総合的に判断します

コミュニケーション論

1. 目的

医療現場では、他職種との連携やクライアントの対応などにコミュニケーション力が求められるため、効果的なコミュニケーション方法に関する知識やスキルを学ぶことが重要である。講義では、ペアワークやディスカッションを通じて、自分自身や他者の理解を深めるとともに、情報収集の大切さについても学ぶことを目的とする。

2. 授業計画：

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 1. 自分の考え方を知る
・ 出来事の説明要因
・ 偏った認知スタイルの修正 | 5. 情報収集の大切さ②
・ 判断材料の収集
・ 記憶の誤り |
| 2. 自分と他者を知る
・ 自分の考え方
・ 他者の考え方 | 6. 自分の考え方を知る②
・ 考えるしくみ
・ 行動分析 |
| 3. 情報収集の大切さ①
・ 偏見
・ 文脈的情報の理解 | 7. 情報収集の大切さ③
・ 必要な情報とは |
| 4. 聞き方・話し方
・ 適切な聞き方・話し方
・ アサーティブな主張 | 8. 他者の意見を聞く
・ テスト
・ 議論 |

3. 教科書：毎回資料を配布

4. 評価の方法：試験40%、提出課題30%、授業での実習30%

生理学・口腔生理学

1. 目的

生理学は、生命現象の機序を研究する自然科学である。すなわち、ヒトの身体は、さまざまな器官や組織から構成されているが、それらがどのようなはたらきをしているのか、また、そのはたらきの仕組みはどのようになっているのかを明らかにする学問である。

身体の正常なはたらきを知るだけでなく、病気を理解するためにも生理学の知識は重要である。なぜなら、病気とは身体の正常なはたらきを保つことができなくなった状態であり、それゆえ、生理学を知らなければ病気の本体を知ることはできないのである。

2. 授業計画：

生理学

1. 生理学・口腔生理学の意義

細胞

体液

体液の循環

2. 呼吸

消化

尿の生成と排出

代謝

体温

3. 内分泌

生殖

4. 筋

神経

感覚

5. 実習 血圧測定

口腔生理学

1. 歯および歯周組織の生理

咬合と顎運動

咀嚼と吸引

嚥下および嘔吐

2. 唾液腺および唾液の生理

口腔感覚

発声

3. 咀嚼能率・口腔感覚

3. 教科書：歯科衛生士テキスト「生理学」(学建書院)

4. 評価の方法：出席態度 単位試験およびレポートによる

華 道

1. 目的

華道から学ぶ礼節やマナー
免状取得

2. 授業計画：講義

講義回数	講義内容
1	未生流の歴史・二大様式(格花・新花) 道具の説明(各名称及び扱い方)
2	礼節とマナー
3	新花基本形 色彩盛花
4	新花基本形 個性盛花
5	花器 水揚げ 留め方などの基礎知識
6	新花自由形 自然手法 造形手法 小品花 極小の花
7	新花基本形 瓶花 五節句
8	格花

実 習	
新花基本形・個性盛花	直立型
	斜型
新花基本形・色彩盛花	体用型A
	体用型B
	体用型C
新花 自由形	造形手法
	色合わせ
格花	

(順不同)

3. 教科書：未生流お稽古ノート

4. 評価の方法：講義および実習内容の小テストと、実習花のいけ上がりの作品とを合わせて評価

化 学

1. 目的（一般目標）

分子レベルで進歩する歯科医学の基本を理論的に把握し、歯科衛生士業務を遂行する基盤をつくるために、まず、物質の構造、性質および物質相互の反応、生体構成分子の構造を学ぶとともに、身近に起こっている現象を分子レベルで捉える習慣を身につける。

2. 授業計画：講義

1. 栄養と代謝（教本p1～3）

生命活動の概要

1) 細胞の役割（教本p6～9）

2. 2) 生体における水（教本p9～12）

3. 3) 生体構成成分と栄養素（教本p12～21）

4. 栄養素の働き

1) 糖質の栄養的意味（教本p140～145）

5. 2) タンパク質の栄養的意味（教本p145～152）

6. 3) 脂質の栄養的意味（教本p152～156）

7. 4) ビタミンの栄養的意味（教本p156～162）

8. 5) ミネラル・水・食物繊維の栄養的意味（教本p162～175）

3. 教科書：最新 歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」 第2版 歯科衛生士書き込み式学習ノート①専門基礎科目編

医歯薬出版
医歯薬出版

4. 評価の方法：科目試験（100点）で60点以上獲得したものを合格とする。

歯科器械材料学

1. 目的

歯科治療は、歯科材料なしではその目的を達せられません。

治療の成果を上げるためには、治療技術に加えて、材料の有している諸性質を最大限に発揮させる必要があり、そのため、材料の基礎的知識を修得し正確に材料を取り扱えるように、又、患者に対して解りやすく説明できるように歯科材料を理解することを目的とする。

2. 授業計画：

A：講義

1. 歯科治療と歯科材料のかかわりについて
2. 歯科材料の素材と歯科材料の分類について
3. 歯科材料の所要性質と基本的性質について
4. シーラント材料について
5. 成形歯冠修復材料について
6. 仮封材と暫間被覆冠について
7. 印象材料について
8. 模型材料について
9. 合着材と接着材について
10. 歯科補綴材料について
11. 切削・研削・研磨材料について

B：実習

個人トレイ製作から印象採得・模型作製まで

3. 教科書：最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科材料」(医歯薬出版)

4. 評価の方法：単位試験、レポート、実習

衛生学・公衆衛生学

1. 目的

衛生学・公衆衛生学は、健康に基礎をおいた健康科学の一領域である。また、歯科保健を集団レベルで対応する分野でもある。将来、医療人となるためには、健康と疾病および疾病予防の概念を十分に理解する必要がある。衛生学・公衆衛生学の講義では、社会科学的な知識と技術を習得し、歯科保健医療の領域で公衆衛生の素養を身につけることを目的とする。

2. 授業計画：講義

講義は下記の事項について、教科書とスライドを用いて行う。

第1回：総論・疫学

第2回：人口統計

第3回：母子保健

第4回：感染症、食品と健康

第5回：地域保健、成人保健

第6回：産業保健

第7回：学校保健、健康と環境

第8回：国際保健、老人保健

3. 教科書：最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版（医歯薬出版）

4. 評価の方法：単位試験

口腔衛生学

1. 目的

口腔衛生学は、口腔領域の疾患を予防することだけでなく、歯・口腔の形態と機能の保持・増進を図ることにより、全身の健康を維持することを目的とする学問である。個人の口腔保健指導・予防処置をはじめ地域口腔保健業務を担うための基礎知識を身につけ、応用する能力を培うことを本講義の目的とする。

2. 授業計画：

講義（テキストの章とページ）

4 / 25	1. 2. 総説（第1章 p. 1-17）
	3. 4. 歯・口腔の不潔（p. 17-26）
5 / 16	5. 6. 口腔清掃（第2章 p. 27-42）
	7. 8. う蝕の発生要因（第3章 p. 43-46）
5 / 30	9. 10. う蝕活動性および予防方法（第3章 p. 46-54）
	11. 12. フッ化物によるう蝕予防（第3章 p. 55-72）
6 / 13	13. 14. 歯周疾患、口臭・不正咬合の予防（第4・5章 p. 73-98）
	15. 16. 地域口腔保健活動（第7章 p. 151-215）
6 / 27	17. 18. 歯科疾患の疫学（第6章 p. 124-132）
	19. 20. 歯科の疫学指標（第6章 p. 104-123）
7 / 4	21. 22. 実習説明
	23. 24. 実習（う蝕活動性試験）
7 / 11	25. 26. 実習（口腔内診査・歯口清掃）2班に分かれる
	27. 28. 実習（口腔内診査・歯口清掃）2班に分かれる
7 / 16	29. 30. 実習のまとめとテスト対策（復習）

3. 持ち物：

- ・ 歯科衛生士テキスト「口腔衛生学-口腔保健統計を含む-」第4版学建書院
- ・ テキストにアンダーラインを引くためのマーカー（赤鉛筆、蛍光ペン）
- ・ 配布されたレジュメ（印刷物）

4. 評価の方法：単位試験、出席点、実習レポート

実習内容

7 / 4

・ 21. と 22.

講義：食習慣における砂糖とう蝕、代用甘味料

講義：実習説明

実習：1) う蝕活動試験

2) 口腔内診査・歯口清掃

・ 23. と 24.

実習：1) 唾液流出量テスト（安静時・刺激）

2) Dentcult-SM、Dentcult-LB

3) RDテスト、カリオスタット

4) Dentobuff-strip

5) ペリオスクリーン

6) 糖・代用甘味料味覚体験（ショ糖・バラチノース、ソルビトール、キシリトール、アスパルテーム）

7 / 11（1班、2班交代）

・ 25. と 26.（27. と 28.）

1班 口腔内診査（歯口清掃）

2班 歯口清掃（口腔内診査）

口腔内診査：歯の診査（DMF）、歯周組織の検査（CPI）、歯肉の検査（PMA）

歯口清掃：OHI、OHI-S、PCR、100%磨き

7 / 16

・ 29.

実習：実習帳まとめ

・ 30.

実習：テスト対策（復習）

文 学 論 (国語表現を含む)

1. 目的

本講義では文章表現の基礎を学び、自分の考えをわかりやすく表現できる力を養う。日本語表現能力は、社会人になっても必要とされる能力である。様々な文章（レポート・手紙・報告書など）を書くための土台を学ぶことで、「自分の考えが正確に伝わる文章」・「読む人が理解できる文章」を書く力を身につける。

2. 授業計画：講義

- 1 正確に伝わる言葉の使い方
- 2 わかりやすい文章の書き方①
- 3 わかりやすい文章の書き方②
- 4 論理的に構成された文章の書き方①
- 5 論理的に構成された文章の書き方②
- 6 敬語について
- 7 レポートを書くための基礎
- 8 まとめ・確認

3. 教科書：適宜、プリント等を配布する。

4. 評価の方法：出席・課題・試験等で総合的に判断する。

生化学・口腔生化学

1. 目的（一般目標）

分子レベルで進歩する歯科医学を生涯にわたり自己研鑽し、歯科衛生士業務をとおして歯科医療に応用する姿勢を醸成するために、生命現象を連続した化学反応として捉える習慣（生化学的思考）とその習慣を生涯にわたり持ち続ける意欲を身につけるとともに、生命維持に必要な生体分子の代謝過程、口腔諸組織や唾液の成分と機能を理解する。

2. 授業計画：講義・演習

ポートフォリオを活用したプロジェクト学習をベースとして、講義と演習（反転授業、team-based learning (TBL)、world cafeにて進行する。

1. (講義) I 編 1～5章 (教本p6～47)

生化学の学修目標、方略、評価方法

2. (演習)

World Café (10年後の歯科衛生士)

3. (演習) I 編 2～5章 (教本p23～47)

TBL (準備確認小テスト・グループ演習)

4. (講義) II 編 1章 歯と歯周組織の生化学 (教本p50～64)

5. (演習) II 編 1章 歯と歯周組織の生化学 (教本p50～64)

TBL (準備確認小テスト・グループ演習)

6. (講義) II 編 2章 硬組織の生化学 (教本p65～80)

7. (演習) II 編 2章 硬組織の生化学 (教本p65～80)

TBL (準備確認小テスト・グループ演習)

8. (講義) II 編 3章 唾液の生化学、4章 プラークの生化学 (教本p81～104)

3. 教科書：最新 歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」 医歯薬出版 第2版 歯科衛生士書き込み式学習ノート①専門基礎科目編 医歯薬出版

4. 評価の方法：科目試験 (60点)、TBL (30点)、ポートフォリオ (10点) の合計100点中、60点以上獲得したものを合格とする。なお、再試験は科目試験 (100点) のみで評価する。

情報処理

1. 目的

コンピュータは現代社会において幅広く使われており、今や私たちにとっては欠くことのできない身近な道具となっている。本演習はコンピュータを使って日常生活でよく用いられる文書や説明用資料の作成能力を養い、併せてデータ活用能力も高めることを目的とする。

2. 授業計画：

演習回数	演習内容	使用ソフト
1回目	パソコンの基本操作・通常文書の作成	Word
2回目	ネット文書の編集・プレゼンソフトの基本操作	Word / Power-Point
3回目	プレゼン資料作成練習・表計算ソフトの基礎	Power-Point / Excel
4回目	論理演算式・回帰曲線・相関係数	Excel
5回目	データ検索・データ整理・マクロ	Excel

3. 資料：演習項目ごとの資料を配布する。

4. 評価の方法：(単位認定)

- ・出席時間が3分の2以上であること（毎時間出席をとる）。
- ・提出課題及び学習態度により評価を行う。

5. その他：

- ・教科書内容（パソコン基本操作・Word・Excel・Power-Point）を予習しておくこと。
- ・毎演習時に提出課題（演習時間内に仕上げる）を求める。
- ・タイピングに熟達しておくこと。

以上

心理学（臨床心理学）

1. 目的

歯科医療の現場では、日々、様々な年齢や背景を持つ人（患者様）と出会う。また、仕事を円滑に進めるためには、歯科衛生士に加えて、歯科医師や受付事務といった多職種の人との協働が大切になってくる。

本講義では、こころを理解するための基本的な枠組みをいくつか紹介することで①自分自身について②自分とは異なる他者とのコミュニケーションのあり方について考えて理解を深めることを目的とする。なお、適宜グループでの演習を行うことがある。

2. 授業計画：講義

- 1 基礎心理学1（感覚・知覚の心理学/学習・記憶の心理学）
- 2 基礎心理学2（認知・言語の心理学/感情・動機づけ・ストレスの心理学）
- 3 こころを計る（パーソナリティ・知能の心理学）
- 4 発達心理学の緒論（こころの発達）
- 5 ライフサイクルと心の危機
- 6 カウンセリング
- 7 コミュニケーションのあり方
- 8 まとめ

3. 教科書：なし。

適宜、資料を配布する

4. 評価の方法：出席（参加態度を含む）と期末レポートから総合的に判断する

栄 養 学

1. 目的（一般目標）

健康を支える三つの柱が栄養、運動および休養であることを踏まえ、人々のwellnessに広く貢献する歯科衛生士としての職責を自覚し、また、生涯にわたりそれを実践するためには、栄養素の機能、ライフステージに応じた栄養および食生活のあり方についての基本的知識を修得し、栄養状態を最新の科学的エビデンスに基づき評価する姿勢とともに、歯科領域からの改善のための指導計画を立案し、指導する能力を身につける。

2. 授業計画：講義

1. 栄養の基礎知識

- 1) 食生活と栄養（教本p116～119）
- 2) 栄養素の消化・吸収（教本p120～127）

2. 食事摂取基準

- 1) エネルギー必要量（教本p128～132）
- 2) 基礎代謝（教本p128～133）

3. 食事摂取基準

- 3) 日本人の食事摂取基準（教本p133～139）

4. 食生活と健康

- 1) 国民の健康と栄養の現状（教本p178～183）
- 2) 望ましい食生活（教本p184～195）
- 3) ライフステージ別の栄養と調理（教本p195～202）

食べ物と健康

- 1) 食品の成分と分類（教本p203～210）

3. 教科書：最新 歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」 医歯薬出版
第2版 歯科衛生士書き込み式学習ノート①専門基礎科目編 医歯薬出版

4. 評価の方法：科目試験（100点）で60点以上獲得したものを合格とする。

歯科放射線学

1. 目的

現代の歯科医療においてエックス線写真検査の果たす役割は大きい。それだけに撮影装置の保守、管理ならびに写真処理機の整備、取り扱いについて十分な知識を有し、正しい操作のできる事が不可欠である。

一方、患者からの放射線障害についての質問にも正しい応答が必要である。

したがって、例えエックス線の照射権のない歯科衛生士といえども放射線について知り過ぎるということはない。

2. 授業計画：

講 義

1. 放射線総論
2. エックス線の発見とその性質
3. エックス線の発生と撮影装置
4. エックス線像形成の因子
5. 撮影用器材および写真処理
6. 口内法撮影
7. 口外法撮影
8. 放射線防護

実 習

二等分法とパノラマの撮影および写真処理

二等分法とパノラマのスケッチ

3. 教科書：最新歯科衛生士教本「歯科放射線」

岡野友宏ほか著 医歯薬出版株式会社

4. 評価の方法：単位試験、実習態度、スケッチ

歯周治療学

1. 目的

周知のように、歯周病学は歯科衛生士学生にとっては極めて重要で、将来の臨床との関わりも強い学科目である。歯科衛生士試験出題基準をみた場合、歯周病学と基礎科目や口腔衛生学、歯科臨床大要、歯科予防処置、歯科診療補助ならびに保健指導等との科目と極めて関連が深いことを示している。以上の事柄を勘案した場合、単に歯周病学領域に止まらず、関連性の高い他教科との併学を強調し、歯周病学の基礎と臨床ならびに将来の臨床実習を踏まえながら講義を進め、修得する意欲をもたせるように努める。

2. 授業計画：

基礎

歯周組織の解剖・組織

歯周組織の生理

歯周組織の病理

臨床

歯周疾患の病因

歯周疾患の症状と病態

歯周疾患の分類と臨床症状ならび対応

歯周疾患の診査と診断

歯周基本治療

歯周外科治療

薬物療法

メンテナンス治療

以上の内容を講義、パワーポイント、ビデオでおこなう。

3. 教科書：歯科衛生士講座「歯周病学 第2版」(永末書店)

副教本 最新歯科衛生士教本「歯周病学 第2版」(医歯薬出版株式会社)

4. 評価方法：単位試験はマークシート方式でおこなう。

5. 到達目標：

- 1：歯周疾患の病因と病態を説明できる
- 2：歯周疾患の症状を説明できる
- 3：歯周基本治療を説明できる
- 4：歯周外科処置の種類と適応を説明できる
- 5：歯周治療後のメンテナンスを説明できる

薬理学・歯科薬理学

1. 目的

薬理学とは、薬と生体と疾患との相互作用の結果起こる現象を研究しその機構を明らかにすることを目的とした科学であるゆえに、薬理学の基本的知識を生かし、薬物の効力発現を理論的に理解でき各種疾病に対して薬物の適切な選択が出来る力を身につける。

2. 授業計画：講義

- 1 薬理学総論 1 (薬物の概念、医療と薬物)
- 2 薬理学総論 2 (体と薬物)
- 3 薬理学総論 3 (薬物の取り扱い、薬物の管理、薬物と法律)
- 4 中枢神経と薬
末梢神経と薬
- 5 痛みと薬
炎症と炎症治療薬
- 6 感染と薬
精神疾患と薬
機能性疾患と薬
血液と薬物
- 7 救急医療に使用する薬
呼吸・循環系と薬
代謝と薬
消化器系と薬
悪性腫瘍と薬
免疫系と薬
- 8 粘膜・組織の腐食薬と収斂薬
菌内治療と薬
菌周治療と薬
口腔粘膜疾患と薬
齲蝕予防と薬

3. 歯科衛生士テキスト：最新薬理学 疾病の成り立ち及び回復過程の促進

4. 評価の方法：小テスト、講義修了後試験を行う、授業態度、出席状況から評価する

病理学・口腔病理学

1. 概要

病理学では全身の病気と口腔領域の病気の本態を明らかにします。

病気とは正常な形態や機能を逸脱した状態であり、どのように発生するのか(発生機序)、どの部位によく発生するのか(好発)、患者にはどのような特徴があるのか(肉眼所見)、顕微鏡による観察でわかる特徴(組織所見)、そして病気の結果どの

2. 授業予定

1. 病理学概論・病因論・先天異常
2. 循環障害・代謝障害
3. 増殖と修復
4. 炎症
5. 免疫と免疫異常
6. 腫瘍
7. 歯の異常・機械的損傷・化学的損傷
8. 象牙質・セメント質の増生
9. 歯の沈着物と着色・齲蝕
10. 歯髄の病変・根尖性歯周組織の病変
11. 歯周組織の病変・口腔の創傷治癒
12. 口腔粘膜の病変・エプーリス・口腔領域の奇形
13. 顎骨の病変・口腔領域の嚢胞
14. 歯源性腫瘍
15. 非歯源性腫瘍
16. 唾液腺の疾患

3. 教科書：新・歯科衛生士教育マニュアル 病理学 クインテッセンス出版
イラストでわかる歯科医学の基礎 永末書店

4. 評価の方法：授業への参加度 小試験および本試験によって評価する

保存修復学

1. 目的

保存修復学は、歯の硬組織に生じた部分的欠損や病変を修復し、解剖学的形態、機能的形態および審美性を回復する歯科医学における中心的であり、臨床の基礎となる学問である。さらには口腔の健康維持、予防医学や基礎科目とのつながりも強い。当講義では実習も交え、歯科衛生士にとって必要な保存修復学の知識・技能を習得することで臨床に結び付けることを目的とする。

2. 授業計画：講義および実習

- 1 歯の保存療法とは
- 2 保存修復学の概要①
- 3 保存修復学の概要②
- 4 直接法修復①
- 5 直接法修復②
- 6 間接法修復
- 7 ホワイトニング等
- 8 実習

3. 教科書：最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」

(株) 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験で評価する。

歯内治療学

1. 目的

歯内治療学は、歯の硬組織、歯髄組織ならびに根尖周囲組織の疾患の予防法と治療法を考究する学問である。特に歯科臨床で最も苦痛を伴う“歯痛”を対照とする学問であるため、病状の把握と的確な診断と、これらに対する適切、かつ正確な治療法に対する専門的知識を習得することを目標とする。

2. 授業計画：講義

- 1 歯内治療の目的、歯内治療に必要な歯の解剖
- 2 歯内治療における診査・検査法
- 3 歯髄疾患の分類とその特徴
- 4 根尖性歯周疾患の分類とその特徴
- 5 歯髄疾患の治療法（歯髄保存療法）
- 6 歯髄疾患の治療法（歯髄除去療法）
- 7 感染根管治療の概念と術式
- 8 根管の機械的清掃法
- 9 根管の化学的清掃・消毒法
- 10 根管治療の補助療法、仮封法
- 11 細菌検査、根管充填①
- 12 根管充填②、根未完成歯の治療法
- 13 歯内－歯周疾患、外科的歯内治療
- 14 歯内治療における偶発事故
- 15 外傷歯の診断と処置、変色歯の漂白
- 16 超音波・顕微鏡を応用した歯内治療

以上1コマにつき90分授業を行う。

3. 教科書：最新歯科衛生士教本

「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」(医歯薬出版)

4. 評価の方法：単位試験にて合否の判定を行う。

隣接医学

1. 目的

歯・口腔領域は全身の一部であり、全身疾患の部分症状が口腔に現れたり、全身疾患が歯・口腔疾患に影響を及ぼすことがある。逆に歯周病のように口腔疾患が全身疾患に影響を及ぼすこともある。また高齢化社会を迎え、全身疾患を有する患者の歯科診療の機会が増大している。そこで、歯科医療、口腔ケアに関わる歯科衛生士も全身疾患の基礎知識を理解することは重要であり、特に歯科医療に関連の深い全身疾患を主体に学ぶ。

2. 授業計画：講義

- 1 糖尿病、脳血管障害、神経疾患、リウマチ・アレルギー性疾患、心身症
- 2 高血圧・心疾患、呼吸器疾患、消化管疾患、甲状腺疾患
- 3 感染症、血液疾患、腎疾患、肝疾患

3. 教科書：歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック（デンタルハイジーン別冊）

医歯薬出版

4. 評価方法：出席点・レポート点

感染予防学

1. 目的

歯科衛生士は医療専門職として、医療関連感染を予防することは最も基本的な要件の一つである。

とくに歯科診療では出血を伴う処置が多いことや歯の切削等による飛沫に伴って患者の体液に直接曝露する機会が多いこと、使用する機械器具が多様で鋭利なものが多いこと、さらに多くの場合患者の感染症を把握することが困難である等の問題を抱えている。

一方で、例えば現在、世界の人口の100人に1人がHIV感染者である。わが国では自分の感染を知らない事例が多いこと（自認率が低い）が報告されている。従って、自分が感染しないこと、自分が媒体となって患者や医療スタッフに感染を拡大させないこと、機械器具の管理、また、職業感染対策（体液曝露発生時の対策）についての十分知っておくことは大変重要である。

「感染と感染症」「医療関連感染対策」の知識を獲得することを目的とする。

2. 授業計画：講義

1. ①医療安全（通知）、および感染予防対策の意義
 - ②歯科医療者が知っておくべき感染症。(MRSA, HBV, HCV, 梅毒等)
 - ③HIV/AIDS（前半）
2. ①HIV/AIDS（後半）
 - ②歯科臨床における感染症患者の実態
 - ③感染管理 -院内感染予防対策-
 - (1) 感染予防対策の基本（スタンダードプリコーション）
3. 前回③のつづき
 - (2) 洗浄・消毒・滅菌
 - (3) 菌性感染症、外傷と感染予防、そして歯科の特殊性と感染対策
4. ①職業感染対策（体液曝露発生時の対策）
 - ②VTR 供覧
 - ③医療廃棄物の適正処理と管理
 - ④国家試験（過去）問題の解説

3. 教科書：「歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄」 ICHG編 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験

歯科予防処置論 I

1. 目的

歯や口腔の疾患の予防のために、歯科医師や歯科衛生士などの専門家によって行われる処置を歯科予防処置という。人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために必要な専門知識、技術、および態度を習得する。

2. 授業計画：

1. 概要
2. 口腔の基礎知識 1
3. 口腔の基礎知識 2
4. う蝕の基礎知識
5. 歯周病の基礎知識
6. 口腔内カメラ
7. 口腔内の観察 1
8. 口腔内の観察 2
9. 歯・歯周組織の検査 1 (講義・模型実習①)
10. 歯・歯周組織の検査 2 (模型実習②)
11. 歯・歯周組織の検査 3 (相互実習①)
12. 歯・歯周組織の検査 4 (相互実習②)
13. 手用スケーラーについて
14. シックルタイプスケーラー (模型実習)
15. キュレットタイプスケーラー (模型実習)
16. シャープニング 1
17. シャープニング 2
18. 歯面清掃・歯面研磨 (講義・模型実習①)
19. 歯面清掃・歯面研磨 (模型実習②)
20. 歯面清掃・歯面研磨 (相互実習①)
21. 歯面清掃・歯面研磨 (相互実習②)
22. 歯面清掃・歯面研磨 (相互実習③)
23. 単位試験

3. 教科書：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版
最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版

4. 評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度

歯科診療補助論 I

1. 目的

日々の臨床において比重が大きい「診療の補助」を実践するため、原則的な行動のパターンを確立できるよう基礎的な知識と技術を習得する。

2. 授業計画：

1. 総論・医療安全と感染予防
滅菌・消毒について 手指消毒法実習 ゴム手袋の取り扱い
2. 歯科材料と歯科診療の流れ
衛生材料の取り扱い
3. 印象用材料の取り扱い・模型用材料の取り扱いⅠ
4. 印象用材料の取り扱い・歯科用ワックスの取り扱い
5. 合着材および接着材の取り扱いⅠ
6. 合着材および接着材の取り扱いⅡ
7. 合着材および接着材の取り扱いⅢ
8. 成形歯冠修復材の取り扱い・隔壁法について
9. 仮封材、歯肉排除用薬剤の取り扱い
10. 共同作業の基本・患者誘導について
ポジショニング・診療用器械の知識と取扱い
11. フォーハンドシステム・バキュームテクニックの基本技法（講義・マネキン実習）
12. フォーハンドシステム・バキュームテクニックの基本技法（相互実習）
13. 印象材の取り扱い（アルジネート）
14. 印象材の取り扱い（マネキン・模型作製）
15. まとめ

3. 教科書：最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 医歯薬出版
最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料 医歯薬出版
最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科機器 医歯薬出版
新・歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄 医歯薬出版
第3版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 永末書店

4. 評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度・レポート

歯科保健指導論 I

1. 目的

歯科保健指導とは個人や集団を対象として、生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動に変容させることで、QOLの向上につながるように支援することである。

講義や実習及び演習から倫理的に裏付けられた科学的な実践過程を用い、対象者（患者や健康は人々）の要望や問題に応じた支援ができる能力を身につけることを目的とする。

2. 授業計画：

1. 総論・基礎知識
2. 口腔清掃指導
3. 口腔清掃法①
4. 口腔清掃法②
5. 口腔観察法①
6. 口腔観察法②
7. 口腔観察法③
8. 口腔清掃指導法 I
9. 食生活の基礎
10. ライフステージ別保健指導 I
11. ライフステージ別保健指導 II
12. ライフステージ別保健指導 III
13. ライフステージ別保健指導 IV
14. 口腔清掃指導法 II 相互実習
15. まとめ・試験

3. 教科書：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版
最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版 医歯薬出版

4. 評価の方法：単位試験・実習評価・出席率・授業態度・レポート

一般社団法人 大阪府歯科医師会附属歯科衛生士専門学校

講義概要

平成10年4月 初版
平成12年4月 改訂
平成14年4月 改訂
平成16年4月 改訂
平成18年4月 改訂
平成19年4月 改訂
平成21年4月 改訂
平成22年4月 改訂
平成23年4月 改訂
平成24年4月 改訂
平成25年4月 改訂
平成26年4月 改訂
平成27年4月 改訂
平成28年4月 改訂
平成29年4月 改訂
平成30年4月 改訂
平成31年4月 改訂

発行者 一般社団法人 大阪府歯科医師会
附属歯科衛生士専門学校
大阪市天王寺区堂ヶ芝1丁目3番27号